

# 令和5年度 寄附講座にかかる評価報告

寄附講座は、本学が自主性、主体性を持ちながら、研究・診療・教育の活動を行っている一方で、寄附者からの寄附金を財源としていることから、講座運営の透明性や研究活動の実績、成果を求められております。

このことから、毎年、活動報告書や成果報告会において報告を受け、寄附者や外部有識者で構成する寄附講座アドバイザーなどにより、各講座の活動に対して評価を行い、適切でより良い講座運営が図れるよう取組みを進めております。

## 1 評価の概要

寄附講座にかかる評価は、各講座から提出された研究活動報告書・診療実績報告書・教育活動報告書をもとに、寄附者や寄附講座アドバイザーなどの評価を踏まえ、まとめたものです。

### (1) 評価者

①寄附者（15団体 ※辞退者を除く）

②寄附講座アドバイザー（6名）

公立大学法人会津大学 理事 岩瀬次郎 氏

置賜広域病院企業団公立置賜総合病院

臨床検査部長 兼 輸血部長 兼 病理科科長 前田邦彦 氏

大和自動車交通株式会社 代表取締役社長 大村雅恵 氏

社会福祉法人恩賜財団済生会支部 福島県済生会

済生会福島総合病院 院長 星野 豊 氏

公益財団法人福島県産業振興センター 理事長 野地 誠 氏

公益社団法人福島県看護協会 会長 佐藤博子 氏

③学内評価者（4名）

医療研究推進戦略本部長、副本部長、

医療研究推進センター長、医療産業連携部門長

### (2) 評価の区分

講座の活動における計画に対する達成度合いに応じて以下の区分により行っております。

S：優れている（計画の100%超）

A：評価できる、適切である（計画の80～100%程度）

B：やや改善を要する（計画の60～80%程度）

C：改善を要する（計画の60%未満）

## 2 評価結果

評価者による評価の結果、大半の講座の研究活動、診療実績、教育活動については評価できる、適切であるとの評価をいただきました。

特に、講座の目的および計画に対して、どのような活動が行われ、どのような成果が上げられたのかを寄附者へ丁寧に説明すること、積極的に論文化に取り組むこと等の助言や、次年度が最終年度の講座に対しては、事業計画を完遂することへの期待が寄せられました。

講座名	評価区分	評価	主な意見
外傷学講座	教育	S	・医師、医学生、院内スタッフ、市民対象の市民講座の開催など幅広い対象者への教育活動も行っており、評価される。
	研究	A	・外傷データベースの更なる蓄積がなされた。学会主催もあり、多くの研究発表、また多数の論文が執筆された。
	診療	A	・外傷治療を集約して行い、初診数・手術件数・外来延数・入院患者延数のいずれも昨年より大幅に増加している。
低侵襲腫瘍制御学講座	研究	A	・多施設のデータ収集も進んでおり、また腸蠕動音測定デバイスも完成している。 ・構成員毎に多数の学会発表や論文作成がなされ、存分な研究成果が評価できる。
エピゲノム分子医学研究講座	研究	A	・non-codingRNA に着目、疾患の分子基盤の解明や新規治療法の開拓を目標とした研究が、概ね進められている。 ・研究計画の変更や新規プロジェクト等、益々の研究進展を期待する。
アスタチン核種治療研究講座	研究	A	・非臨床試験の実施について PMDA の承認のもと、臨床試験開始に向け着実に準備が進められていることが理解された。今後の展開が期待される。 ・最終年度でするので、その成果を論文にて公表できることを期待する。
スポーツ医学講座	教育	A	・若手医師、理学療法士への教育、高校生、小学生対象の教育活動など評価される。今後の更なる展開を期待する。 ・ポストコロナ下において検診規模の拡大等が図れている。
	研究	A	・得られたデータの学会報告～論文化が順調に進んでいると思われる。
	診療	A	・ポストコロナ下に、外来患者数が着実に増加している。 ・高水準かつ優秀な診療活動が行われている。
地域包括的癌診療研究講座	研究	A	・前期までに確立した、がん治療センターでの様々な研究活動が実践されており、成果が現れている。 ・2040年に向けて地域包括ケア推進は重要な課題である。研究目的、目標に沿った研究活動が展開されており、この研究の推進に期待する。
	診療	A	・地域における癌診療に関する継続的な啓蒙活動などは大いに評価できるところであり、実績に結びつくことを期待する。 ・継続困難ながん治療の実践や、複数施設での連携治療の実現など成果を上げている。
疼痛医学講座	教育	A	・慢性疼痛対策については、対象者にとって QOL に関わる重要な研究であり、次世代に対しての教育も継続的に進められており評価できる。 ・疼痛医学講座として、保健科学部、医学部生への講義の他、医療従事者に対する専門的知識の普及など幅広く活動を行った。
	研究	A	・研究活動内容がより具体的に記載され、多職種連携による治療や患者の就労支援に寄与する研究など取組をわかりやすく記述している。
	診療	A	・多面的・集学的な慢性疼痛診療システム確立に向け、診療実績の積み上げ、課題認識を適切に行っており、最終年度の成果実現に期待する。

間葉系幹細胞 応用研究講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期待される最終的な目的に向けて、着実に進展しており、問題なく進んでいる。</li> <li>・成果発表会において、研究上の問題点、課題が明らかにされた。</li> </ul>
こころと脳の 医学講座	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者として複数の大学の学生、大学院生、研修医、研修者と幅広く教育活動を行っており評価できる。更なる活動を期待する。</li> </ul>
	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初年度としては十分な成果を上げているものと考えられる。</li> <li>・5年度の研究活動の実績や成果、課題、保険申請不採用の要因等を把握し、今後の具体的取組を期待する。</li> </ul>
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理想を実現する強い熱意が感じられた優れた診療活動である。</li> </ul>
地域支援視機能 再建学講座	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度は、次世代の医療人対象にレベルに合わせたがん科学の教育を行う予定とのこと。さらなる展開に期待する。</li> <li>・限られた人員体制の中で計画に沿った教育活動が行われている。</li> </ul>
	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学会・論文にて研究成果を報告されることを期待する。</li> </ul>
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手術件数も増加し、期待どおりの成果を上げているものと考えられる。</li> <li>・医師不足地域での精力的な診療活動に感謝する。</li> </ul>
周産期・小児 地域医療支援 講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療統計データ収集と解析に所定の実績。最終年度には南相馬市も加わり広がりも見られる。調査データは県へも提供しており施策への繋がりも期待される。</li> </ul>
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公立岩瀬病院や国立福島病院の診療活動の実践をベースに、県中部須賀川地域の周産期医療および小児医療に関連する医療情報の解析を進めながら診療活動が展開されており、地域の特性に沿った医療の構築に結び付いていると評価。</li> </ul>
地域救急医療 支援講座	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該年度は特に消防職員向けの講義を充実させ、救急現場に関わる多くの者のスキルアップにつなげることができたと評価する。</li> <li>・震災の被災地である福島市においては、本講座の教育活動は特に重要と考えられ、今後の救急医療を展開する上でも、きわめて有意義な取り組みである。</li> </ul>
	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師や医療従事者だけでなく、福島市(行政)、福島市消防本部、管内の高齢者施設などを巻き込んだ組織あるいはチームでの研究体制の構築はさらに奥行きのある研究に繋がると思われる。</li> </ul>
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福島市内の救急医療体制において、本講座による診療支援より12誘導心電図の伝送が頻回に行われるようになり、救急搬送困難事案の解消に大きな役割を果たすなど、本講座の診療活動は極めて重要なものと思われる。</li> </ul>
ヒト神経生理 学講座	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福島医大をはじめ、全国の医学部学生、研修医、専攻医など様々な対象者に対して、精力的な教育活動を行っており、本講座の目的に沿う教育実践がおこなわれていると評価。</li> </ul>
	研究	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TMSなどの非侵襲的刺激を利用した神経疾患・神経損傷の治療法の検討およびその基盤となる神経可塑性の誘導に関する研究は多くの患者に福音をもたらす重要な取り組みである。</li> </ul>
	診療	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な診療、特に対応の困難な神経障害へのアプローチに取り組んでおり、極めて有意義な実践と評価。さらに本講座の診療活動は、会津地域の医療の底上げにも寄与している。</li> </ul>
先端地域生活 習慣病治療学 講座	研究	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福島CKDコホートの幅広い研究実績。AIによる解析など先進医療としての研究も実施。全自動透析機の試作には至っていないものの全体として顕著な成果。</li> </ul>
	診療	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南相馬市での診療とともに、相双地域、あるいは浜通り全域の地域医療の充実にも資するという点で、極めて、重要な取り組みと評価する。</li> </ul>
癌集学的治療 地域支援講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置計画にそった研究が精力的におこなわれ、論文掲載や学会発表などの成果も年毎に増加しており、着実な成果につながっている判断し、高く評価する。</li> </ul>
救急・生体侵襲 制御学講座	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師のみでなく、看護師、薬剤師など救急医療・集中医療に関わるあらゆる職種を対象とし、多職種連携を重視しているところは時宜に即した大変重要な視点。</li> </ul>

救急・生体侵襲制御学講座	研究	A	・郡山市など高齢化のすすむ地方都市での救急対応のありかたは、今後の全国での対応のモデルになると思われる。そのような点からも本講座での研究は大変重要なものと評価する。
	診療	S	・総合南東北病院救急センター・集中治療室での診療活動は、郡山市を中心とする県中地区の地域医療の中心であり、本講座の診療活動は極めて重要である。
甲状腺治療学講座	教育	A	・震災後県民健康調査に従事する超音波専門医や超音波検査士、調査結果の解析を担う専門家、甲状腺疾患の治療を担う医師の養成など、本講座の目的に合致する教育活動が適切に行われていると評価。
	研究	S	・多くの論文掲載や学会発表が示され、優れた実績が積み重ねられている。 ・令和5年度で本講座が終了したことは大変残念ですが、本講座の活動は極めて重要であり、なんらかの形で継続されることを期待する。
	診療	A	・福島医大ならびに寄附講座の依頼元である星総合病院に甲状腺専門外来を開設し、精力的に診療の実践を行ったことは、本講座の設置計画に合致した診療活動であると評価する。
多発性硬化症治療学講座	教育	S	・活動ごとに、試験やアンケートを実施するなどして、参加者の属性や感想・意見などの取り込みがなされているようですが、さらに具体的な解析が期待される。
	研究	S	・多発性硬化症(MS)や視神経脊髄炎(NMO)、MOG抗体関連疾患へ多角的なアプローチは極めて学際的で、大変重要な取り組みと思われる。その中で、病態の解明や実臨床的な診断基準の確立、疫学的調査など多くの実績が生み出されていることは極めて高く評価する。
	診療	A	・診療体制を維持するとともに、今後、次世代の育成も視野に入れたさらなる展開を期待。
総合内科・臨床感染症学講座	教育	S	・精力的に教育活動が実践されていること、とくに医師に限らず、コメディカル、非医療従事者、高校生など広い対象者に対して、積極的に活動を展開していることを高く評価。
	研究	S	・福島医大では、従来、地域固有感染症の解析に優れた実績をあげているので、本講座の精力的な研究はそのような伝統を継承する上でも極めて興味深い活動と思われる。今後のさらなる研究の発展を期待。
	診療	S	・感染症の診療には、様々な診療科や院内組織、さらに行政などとの連携が必要であり、これらを有機的に結びつけた積極的な診療体制の構築自体が大変素晴らしい実績と評価。
災害医療支援講座	教育	A	・浜通りにおける災害医療に関する研修会を、計画的に継続的に実施していることは大変評価できる。
	研究	A	・被災地医療における臨床データの収集分析を着実に進めて、研究のさらなる充実を期待する。
	診療	A	・被災地の医療人材の不足の中で、長期にわたり浜通りの診療業に当たっていることに敬意を表する。震災後時間が経過する中、医療ニーズを分析、果たすべき役割を明らかにしながら、引き続き災害医療支援への取組を期待する。
白河総合診療アカデミー	教育	S	・教育計画が確実かつ継続的に実施されていることや、魅力ある研修プログラムの実践、訪問診療の実施など目的に向けて積極的な活動がされていることを評価する。
	研究	A	・総合診療医の育成及び地域医療体制における地域住民の健康増進といった明確な目的に基づき、計画的に着実に研究成果を出している点を高く評価する。
	診療	S	・地域ニーズにこたえるべく救急医療対応や一方で在宅診療を担うなど、県南地域における医療の中心的役割を果たすことへの期待が大きい中、着実に成果をあげていることは高く評価できる。
外傷再建学講座	教育	A	・充実した教育体制の結果として全国から若手の医師を集めており大いに評価できる。
	研究	A	・会津における外傷再建センターとして果たす役割は大きく、研究の中心として期待は大きい。 ・今後論文業績の充実をのぞむ。

外傷再建学講座	診療	S	・外傷症例の手術件数を着実に増加させており、今後は、人材確保、会津医療圏の外傷症例の集約化などに引き続き取り組んでみたい。
地域先端循環器病治療学講座	教育	A	・初年度の活動としては、教育計画・教育内容が精査され、内容が充実しており高く評価したい。今後の教育上の課題も明確に把握しており、その取り組み効果に期待したい。
	研究	S	・研究計画に基づく活動内容と成果が具体的に記載されるなど、寄附講座の活動内容が適切に見える化されている。これまでの成果と課題を踏まえた研究活動に期待する。
	診療	A	・相双地区における循環器診療システムの構築=福島医大との連携による診療体制の充実、及び、地域の医療機関との連携による早期発見早期診療体制構築への期待は非常に大きい。
生体機能イメージング講座	研究	A	・がん治療に有効な検査方法や診断方法の研究、更には治療方法の確立に向けた期待は大きく、研究の一層の進展を望む。
心臓調律制御医学講座	教育	S	・基本的事項を含めた教育計画を着実丁寧に実施しており、高く評価できる。
	研究	A	・心房細動を中心にその病態解明が進み、アブレーション治療の進歩も明らかとなってきている。
	診療	S	・不整脈治療の成績も良好で、症例数の積み重ねもあり地域医療のニーズに充分応じていると評価。
地域産婦人科支援講座	教育	S	・長期間、明確な目的のもと地域に寄り添った教育活動を継続実施してきたことへの評価は非常に高い。
	研究	B	・教育活動に注力し効果が認められる反面、諸事情から研究活動面での実績が乏しい点が残念であり、体制整備も含め今後の一層の取り組みに期待する。
	診療	S	・いわき地域における婦人科に関する市民啓蒙運動のこれまでの効果は大きく、診療分野での実績から期待も高まっている。
地域婦人科腫瘍学講座	教育	A	・骨盤 CST 研修は骨盤内蔵全摘術の効果的学習法である。 ・医師の増員もあり、教育活動の充実に期待する。
	研究	A	・婦人科腫瘍治療の標準化へのプロトコル策定に向け進捗状況が管理されている。 ・順次学会発表等にて症例の積み重ねが報告されている。
	診療	S	・設置2年目における診療実績は前年比倍増しており、診療の充実がうかがえる。
東白川整形外科アカデミー	研究	A	・県南における若手整形外科医の今後一層の学術研究支援に期待する。 ・症例数の減少を的確に分析し、地域の整形外科診療ニーズに答えられるよう研究が進捗している。
	診療	A	・東白川地域の整形外科医療ニーズに合わせた診療体制の充実(各専門外来の維持・地域医療に果たす役割の明確化等)をはかっていることを評価する。 ・地域の整形外科診療体制の維持継続に期待。
運動器骨代謝学・手外科・四肢機能再建学講座	教育	A	・最終年度に向け、継続的に講演活動等を実施し、啓発に努めてきたことは高く評価できる。
	研究	A	・講座終了後も更なる臨床研究への取組継続を期待する。 ・設置期間は終了したが、尚論文形式で記録されてゆくことを望む。
	診療	A	・地域医療ニーズに合わせて、大学病院との連携による診療体制を、今後も維持継続していただくことを期待する。

### 3 評価に対する講座の対応

評価者より出された助言等を今後の活動に生かすため、各講座に対して評価をフィードバックしております。助言等に対する各講座の主な対応策等は、以下のとおりです。

#### <外傷学講座>

- ・様々な分野の対象者に沿った内容の教育活動を続けていく。
- ・今後も基礎、臨床とも研究結果を出せるよう研究を続けていく。
- ・今後もさらなる診療体制を固めるため努力する。

#### <低侵襲腫瘍制御学講座>

- ・とくにご指摘いただいた腸蠕動音測定デバイスに関する論文報告を実現させる。
- ・最終年度に向けて、研究結果の論文化を進める。

#### <エピゲノム分子医学研究講座>

- ・途中の成果であっても学会発表を積極的に行っていく。直近では2024年11月の生化学会において発表予定である。
- ・今後も研究計画を適宜変更しながら遂行していく。

#### <アスタチン核種治療研究講座>

- ・本学の発展に資する研究となるよう、研究を展開していく。
- ・成果を論文にて公表できるよう、尽力する。

#### <スポーツ医学講座>

- ・引き続き活動継続に精進する。

#### <地域包括的癌診療研究講座>

- ・現状の運営状況をさらに評価し、高い機能を有した癌治療センターを目指す。このための研究活動を進めていく。
- ・地域の中核病院ともこれまで以上に密接に連絡を取り合い、放射線治療や化学療法など、シームレスな治療の確立を目指したい。

#### <疼痛医学講座>

- ・今後も学生への教育、医療従事者市民に対する慢性痛の啓発を継続してまいります。
- ・慢性疼痛対策についての研究を継続し、今後も多職種連携による治療や患者の就労支援に寄与する研究を行う。まだできていない医療経済学的研究も行って行けるように準備する
- ・定期的なカンファランスを行い、多職種からの意見を集約した上で診療に活かす。

<間葉系幹細胞応用研究講座>

- ・現状を見据えた上で、成果を意識しつつ適切な進捗管理を心がける。
- ・研究実績、課題、対応を明記し、本学の寄附講座としてふさわしい対応を心がける。

<こころと脳の医学講座>

- ・ひきつづき研究対象の保険申請採用に向けて鋭意尽力する。

<地域支援視機能再建学講座>

- ・具体的な活動内容を目標に取り入れる。
- ・人員の拡充を含め検討していきたい。

<周産期・小児地域医療支援講座>

- ・須賀川地方の周産期・小児医療の充実のために、継続した医療調査を行うとともに、調査結果を当地区のみならず県の医療体制検討にも活かして行きたい。
- ・須賀川市及び周辺地域の実情にあった診療支援を計画し、研修医の指導も行う。南相馬市立病院への支援も行い、相双地区の小児・周産期医療体制の充実へも貢献する。

<地域救急医療支援講座>

- ・福島市の救急医療体制の充実には消防救急隊との連携が不可欠である。双方向からステップアップを図り、よりよい救急活動に繋げていく予定。
- ・令和5年度に活動を開始した「高齢者施設からの救急搬送」の問題は、消防救急、高齢者施設のほか、福島市、医師会、弁護士、オンライン診療と情報を共有しながら「高齢者施設からの救急搬送システム」として形にしていきたい。
- ・これまでの搬送困難事案への対策では、事案数の減少に歯止めがかからなかった。その反省を元に、搬送困難事案を可能な限り大学救命センターで引き受け、原則48時間以内に二次救急医療機関へ下り搬送を行うシステムも構築した。次年度はその効果について報告したい。

<ヒト神経生理学講座>

- ・教育の成果を示すのは難しいが、専門医試験に何人か合格しており少しだけ助けになっているかと思う。
- ・今後も研究費が取れば臨床治験へと発展させることを考えている。

<先端地域生活習慣病治療学講座>

- ・今後も増加してくることが危惧される透析困難地区への対応に、南相馬での経験を踏まえて対応していく。

<癌集学的治療地域支援講座>

- ・令和6年度は、3年間の最終年度となるので、これまでの成果を臨床に活かせるよ

う消化管外科学講座とも綿密に連携をとり、自身の活動を逐一評価しながら研究を進めていく。また令和6年度以降の活動にも繋げていけるように、継続計画の検討を行なっていきたい。

#### <救急・生体侵襲制御学講座>

- ・引き続き、救急、集中治療系の医師だけでなく、研修医、他科の医師、看護師、薬剤師、救命士などの教育に邁進し、多職種連携をすすめ、福島県への医師、他職種の人材確保に繋げる。
- ・次年度、最終年度に向けて、引き続き学会発表、症例報告などの他に、各種ガイドラインの委員、レジストリ登録に加えて、本格的に原著論文の採択を目指す。
- ・民間病院だけでは地方都市に医師の確保は困難である。大学との連携により、医師確保に繋がり、それが地方都市の救急医療を支えている。引き続きこの正の連鎖が継続できるように、実績を残していく。

#### <甲状腺治療学講座>

(講座終了のためコメントなし)

#### <多発性硬化症治療学講座>

- ・参加者の属性やご意見の解析を行いそれに基づいて活動を見直していく。
- ・今後とも研究成果を着実に積み上げていく。
- ・次世代の育成は最も大きな課題の一つであり、若手医師の診療の向上さらに研究を含めて指導を強化していく。

#### <総合内科・臨床感染症学講座>

- ・継続的に適切な教育活動を続けていく。
- ・さらに発展できるよう研究を続けていく。
- ・今後も積極的に診療活動していく。

#### <災害医療支援講座>

- ・医師のみならずコメディカル向けの研修や勉強会を引き続き実施し、医療体制の強化に努める。
- ・ミーティングにおいて設置計画に沿った研究となっているか等、継続的に研究計画の見直しを行うとともに、十分な成果が得られているか検証を行う。また、講座の活動内容を広く周知する。
- ・引き続き、浜通りの医療の充実に貢献するべく、診療活動を継続する。

#### <白河総合診療アカデミー>

- ・魅力ある教育を提供し、安定して専攻医を獲得できるよう努めていく。
- ・これまでに築いた研究基盤を活用しながら更なる知見の発信を目指していく。
- ・今後も人員確保に努め、地域のニーズに応える診療活動を続けていく。

<外傷再建学講座>

- ・高齢化社会における骨粗鬆症から脆弱性骨折が増えており、骨折の予防などの医療を進めるため、骨粗鬆症マネージャーの育成をしていく。
- ・定期的な論文の作成数を増やし、英語論文も増やしたい。
- ・人員不足の解消に向けて、対外的なセミナーの講師などを務め、さらに認知度を上げたい。医大のみならず県内の外傷ネットワークの構築を勧めたい。

<地域先端循環器病治療学講座>

- ・地元自治体との連携を密として、引き続き啓発・教育活動に取り組む。
- ・相双地区の疾患予防と診療へ貢献出来るように、研究活動に取り組む。
- ・今後も診療体制の充実、地域連携、医大との連携の拡充を図っていきたい。

<生体機能イメージング講座>

- ・従来のPET検査と比較しながら FAPI-PET の有効性を確立していく。

<心臓調律制御医学講座>

- ・今後も研究活動を継続し、積極的に論文と学会発表を行う。
- ・不整脈診療ニーズに応えるべく、一般市民を対象とした啓蒙活動と治療待機時間短縮に取り組む。

<地域産婦人科支援講座>

- ・今後も同様の活動あるいはさらに発展させた形の活動を行う。
- ・ご指摘を真摯に受けとめ、努力する。今後も地域に根差した医療を目指す。

<地域婦人科腫瘍学講座>

- ・地域を意識した教育を充実させていく。
- ・標準化について倫理委員会に提出の元、県内5病院で開始予定。進めていく。

<東白川整形外科アカデミー>

- ・常勤医が東白川地域の需要に応じた整形外科診療体制を構築するとともに、専門性を有した非常勤医師による外来診療（肩関節&スポーツ、膝関節&スポーツ、骨軟部腫瘍）の提供を可及的に継続する予定である。
- ・常勤医2名による一般的な整形外科疾患に対する医療とともに、非常勤医による様々な専門領域診療の提供を継続したいと考えている。

<運動器骨代謝学・手外科・四肢機能再建学講座>

- ・寄附講座は終了となるが、今後も講義や講演活動を可能な限り継続していく。
- ・今後も臨床研究を継続し、論文も執筆していく。
- ・一般整形外科に、強みとして専門性を加えた診療を今後も行っていく。さらに、臨床研究も進め、地域に貢献する。